

まちづくり、
くらしの情報
を届けます

相馬
ゆうこの

南千住レポート



区議団控え室 荒川区荒川2-2-3区役所内5階 ☎:3802-4627
FAX: 3806-9246 / ✉:arajcp@tcn-catv.ne.jp
相馬ゆうこ事務所 荒川区南千住5-1-6・2階
☎・FAX:3807-4192

・HP→
・Twitter @m1010_yuko
・araken-nan.jugem.jp



聞こえの支援 補聴器購入の助成額引き上げを

高齢になり耳の聞こえが悪くなる「加齢性難聴」への支援として、補聴器の購入費助成の拡充が23区で広がっています。



平均購入額 荒川区は2022年度から助成を開始。助成額は上限2.5万
20~25万円 円、対象は65歳以上で当初「住民税非課税の方」でしたが、今年度から「年間所得350万円未満の方」に、4月からは所得制限なしとする予定。

助成件数は昨年度88件、今年度は2/8時点で124件に増加。一方で平均購入額は、物価高騰の影響もあってか昨年度21.5万→今年度24.8万円に。購入は両耳・片耳が半々くらいのことですが、それでもこの金額です。

【23区の実施状況】

※調査時点

- ★…新年度実施予定
- ◇…今年度から開始
- ◎…内容を拡充

	補助額	年齢・所得要件
港	137,000	60才以上・所得制限なし ※課税の方は半額
★ 中野	両耳 90,000 (片耳は4.5万)	65才以上主生計者の所得が 350万円未満
★ 北	70,000	65才以上非課税 又は 均等割りのみ課税 (本人)
千代田		65才以上所得制限あり
◎ 豊島		65才以上非課税 (本人) ※課税の方は20,000円
◎ 足立	50,000	65才以上非課税 (本人)
◇ 目黒		65才以上非課税 (本人)
★ 世田谷		65才以上非課税 (世帯)
◇ 杉並	45,700	65才以上非課税 (世帯) ※課税の方は22,900円
中央		65才以上所得制限あり
渋谷		65才以上非課税 (本人)
◇ 品川	35,000	65才以上非課税 (本人) →なしに
◎ 江戸川		65才以上非課税 (本人)
◇ 葛飾		65才以上非課税 (世帯)
江東	30,000	65才以上所得制限あり
荒川		65才以上年間所得350万円 未満の方→なしに
文京	25,000	65才以上非課税 (本人)
練馬		65才以上非課税 (世帯)
墨田		65才以上非課税 (本人)
板橋	20,000	65才以上非課税 (世帯)
大田		70才以上非課税 (世帯)

・新宿は現物支給、台東は内容を検討中

	申請	助成	平均購入額
2022年度	109件	88件	21.5万円
2023年度 (2/8まで)	175件	124件	24.8万円



足立など3区が助成額引き上げ

足立は当初助成額2.5万円、豊島、江戸川は2万円でしたが、それぞれ引き上げを実施。今年度開始の4区はすべて3.5万円以上、4月から実施予定の3区は5万円以上です。

助成額は
35,000円以上
が多数に



	2022	2023
それ以上	1区	9区
35,000円	3区	5区
30,000円	1区	→ 1区
25,000円	4区	3区
20,000円	5区	3区

共産党区議団は今議会で、助成額を購入額の半額程度となる10万円に引き上げる条例を提案。物価高騰の中、年金は実質削減、保険料も値上げです。認知症予防のためにも助成額を充実したい。

区立小にも「大谷グローブ」が届きました

昨年11月、メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手が「野球のグローブを全国の小学校に3個ずつ、計6万個を寄付する」として話題に。

「大谷グローブ」は、1月上旬に荒川区にも届けられました。右利き用が大小2種類で各1つずつ、左利き用が1つの計3つ。市長が「市役所に飾る」と言って猛反発を受けた自治体もありましたが、荒川区はすぐに各少学校へ届けたようです。



小学校に届いたグローブと手紙



大谷グローブはめてみました！

学校では、ひとまず各クラスへ回してみんなが手に取ったあと、その後の活用は様々。

A校は…

クラスごとに使用時間を決め、20分休みに体育館でキャッチボールをする時に使う

B校は…

体育・クラブ活動や休み時間等に、担任や担当の先生を通して貸出

C校は…

今後どうやって使うか、みんなからのアイデアを待っているところ



二瑞小のおたよりは、校長先生から「野球経験がない子、運動が苦手な子、友達付き合いが苦手な子…考え方や苦手がひとり一人違う子どもたちが、3種類のグローブを通して野球に親しむだけでなく共に学校生活も楽しんでほしい」とのメッセージも。

小学校でどう活用？ 小学校では「体育の授業でソフトボールを行うこともないし、部活動もない」「設備もなく、教えられる人もいない」などの実態もあります。少年野球チームなどの要望も聞いてはどうでしょうか。また、グローブの紛失・盗難の防止、使用中の怪我やガラスの破損などの管理責任が学校・学童保育の現場の負担増になるのでは…との声もあります。

地域で野球などのボール遊びができる場所は限られています。タグに書かれた「野球しようぜ」の言葉が、「もっと子どもたちがのびのびと野球やスポーツできる環境を」に感じられるのは私だけでしょうか。



タグに書かれた大谷選手のメッセージ



区立公園の案内板

〈法律・生活相談〉

3月の定例法律相談日は 14日(木)です

ご要望やご相談などは随時ご連絡ください。事務所での定例法律相談は、毎月第2木曜18時から。平日の午後15時に法律事務所（北千住）でも可能です。お名前、電話番号等を下記の留守番電話に録音して下さい。

相馬 ゆうこ事務所 南千住5-1-6-2階 ☎3807-4192

訪問介護報酬引き下げで～在宅介護がピンチ

4月からの介護報酬改定で訪問介護の報酬が引き下げられることに対し、介護現場や利用者などから抗議の声が多く上がっています。

人手不足、高齡化が深刻 訪問ヘルパーは1/4が65歳以上で、高齡化と人手不足が深刻。報酬引き下げで小規模事業者が廃業、高齡のヘルパーが引退し、利用者や家族は「訪問介護が受けられなくなるのでは」と



心配の声も。ヘルパーの仕事は、買い物・清掃などの生活支援とおむつ交換などの身体介護とともに、みじかな相談相手でもあります。しかし、ヘルパーの移動時間や待機時間などが無給とされたり、腰痛や精神的な困難をかかえること

も少なくありません。厚労省は事業所に対し「労働基準法に基づく支払い」を求めています。介護報酬引き上げや直接支援なしに、待遇改善と人員確保は困難です。

区内事業者も減少傾向 訪問介護の事業所数は全国的には微増ですが、荒川区では2011年62か所→2022年54か所に8か所減少。

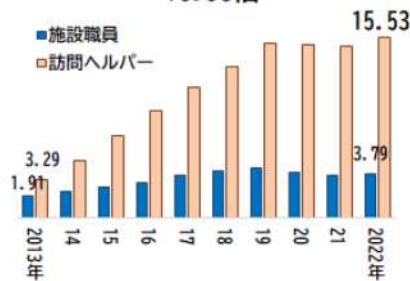
国は今回の報酬引き下げの理由を「訪問介護の収支差率(利益率)は平均値7.8%で、全介護サービスの平均2.4%より高い」ためとしています。実際は約4割の事業所が「利益率0%未満(赤字)」です。ヘルパーの移動時間がほぼない集合住宅併設型ケアや、都市部の大手事業所が利益率を引き上げており、移動時間もかかる小規模事業所や地方の実態を反映



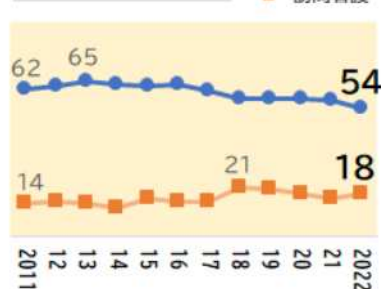
しているとは言えません。

訪問介護が利用できなくなれば家族介護に頼るしかなく、介護離職がすすんだり、子育てと介護のダブルケアやヤングケアラーの増加にもつながります。住みなれた場所で、住み続けられるまちにするため、荒川区の独自支援の実施と介護報酬見直しを国に求めています。

ヘルパーの求人倍率は15.53倍



区内の事業所数



低所得世帯への給付金のお知らせ

①住民税均等割のみ世帯に、10万円給付+子ども1人5万円給付
対象世帯へ、支給内容などを記載した確認書(封筒)を郵送しています。確認書を返送することで申請となります。

②非課税世帯に、子ども1人5万円給付

対象世帯へ「支給通知書(ハガキ)」を郵送しています。申請不要ですが、口座変更等や、2023年12月2日以降に生まれた子どもの分は申請が必要です。コールセンター(☎0120-984-054)へお問合せ下さい。



好きな色のランドセルで、カラフルな未来を

もうすぐ新年度。4月からの学校入学を迎えて、ドキドキしている子どもたちも多いのではないのでしょうか。昨年11月の区報に区内小学生のこんなメッセージが。

「大切じゃない個性はない」

：昔は、男子は黒色のランドセルと決まっていたそうです。ぼくは、このように性別で使う物の色が決まっていたってしたことにとってもおどろきました。

：男だからこうするべきだ、女だからダメだ、という差別がなくなることを願っています。ぼくは、差別をなくすために人を見た目や性別だけで判断しないようにしたいと思います。

人は、着ている服も別々でかみ型も人それぞれ、考え方や感じ方も人によってちがいが、それと同じで人の個性も様々です。全てが同じ人なんていないのだから、その人の個性をきずつけず、その人の個性、人権を一つ一つ大切にしていってほしいです。一人一人の個性、人権を生かしていきける社会で、ぼくは、自分の個性や自分の意見を大切にしていきたいと思います。



わたしが小学生の頃はまだ赤と黒のランドセルが当たり前でしたが、今の小学生にとっては「昔の話」なんだなとしみじみ思いました。ランドセルは明治時代から使われ、当時は牛皮革について、赤と黒色が比較的染めやすく、どちらかの色になったようです。カラフルなランドセルが登場したのは2001年で、一般的になってきたのは2010年以降だそう。機能や素材もいろいろ改良がされてきましたが、これからのあり方も検討課題。

ピンクはまた、「ピンクは女の子」というのも、1950年代のアメリカの大統領夫人マミー・アイゼンハワーのお気に入りの色だったから、という理由だそう。日本でもこんなに根付いてしまっていることに驚きです。男だから、女だからというくりでなく、好きな色を選べる社会を、これからも。



旧千住製絨所のレンガ塀再び

色の違う部分が補修箇所



荒川工高（6丁目）沿いの旧千住製絨所の赤レンガ塀の補修工事がほぼ完了。多数のひび割れ補修、87か所に鉄筋など挿入し、汚れを落とす美装工事も実施。赤レンガ塀はライフ脇にも、身近な産業遺構から感じる歴史も大切にしたい。



ご意見・ご質問頂きました ○3/1からさくらバスが減便になり、多くの方からお困りの声が上がっています。「病院通院に困っています。」「整形に通っているのに、歩いていくのは無理です。」「雨の日は、夜の帰宅に利用していたのが、最終便が早まり、雨の中歩いて帰宅です」と利用者の不便と利用減少の悪循環。区民・利用者の声を聞いて地域の移動手段・さくらバス運行に財政支援を強く求めます。○「ニュースで共産党区議団提案の『学用品公費負担条例』否決知りました。他では、新年度に実施の区もあるようですね、がんばって。」…引き続き提案していきます。

